

見どころ案内

シュウメイギク

(キンポウゲ科)

名前に菊とついていますが、アネモネの仲間です。花びらのように見えるのはガクで、花びらはありません。

展示会のご案内

◇展示資料館 (9/5~10/8)
私の好きな花たちの写真展

シオン (キク科)

2mほどの直立した茎の先に、藤紫色の花を多数咲かせています。日本では平安時代から庭植えにして楽しまれていました。

オトコエシ

(スイカズラ科)

同属のオミナエシに姿形が似ており、たくましい印象があることからこう呼ばれます。小さい白色の花を多数つけています。

ハトラン

(ラン科)

花の中にハトが隠れているように見えます。パナマの国花になっていますが、絶滅のおそれがあるためワシントン条約により保護されています。

ハイビスカス・アーノツティアヌス (アオイ科)

白い花弁と赤い花柱のコントラストが美しいハワイ原産のハイビスカス。暑さが和らぎ、花が増えました。

サルビア・レウカンサ (シソ科)

中央アメリカ原産のサルビアで、アメジストセージとも呼ばれます。紅紫色でピロード質の花穂がよく目立っています。

イズモアザミ (キク科)

中国地方西部の固有種。ビッチュウアザミとしていたものを花の特徴をもとに独立種として認めたものです。

ヒガンバナ

(ヒガンバナ科)

秋の彼岸を代表する植物。花の進化園では見頃を迎えており、ハナショウブ園周辺はやや開花が遅く、これからが見頃となります。

ハギ各種 (マメ科)

ハギは秋の七草のひとつです。ハギの仲間は種類が多く、ハギ園にもいろいろなハギが植栽されています。

ハブソウ (マメ科)

毒虫や毒蛇、特にハブに噛まれた時の薬とされたため名がつけました。ハブ茶の材料として有名ですがエビスグサの種子で代用されることも多くあります。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。中南米原産で、現地では多年草ですが寒さに弱いため日本では1年草として扱います。

